

CNJ Speakers

Know(≠No)More Cancer 私たちは、もっと伝えたい



No.
29

ひとりのがんサバイバーから大きなプロジェクトへ
CNJ News / CNJ Report
海外がん医療 TOPICS

ひとりの がんサバイバーから 大きなプロジェクトへ

がんサバイバーにメイクレッスンとヘアスタイリングをほどこし、プロの写真家が笑顔の瞬間を撮影におさめる。そこに自らのメッセージを添え、ポスターに仕上げ、展示する。「ラベンダーリング」のこの活動は、株式会社電通に勤めていた、故・御園生泰明さんと、その上司の月村寛之さんが発起人となり、社内有志、NPO法人キャンサーネットジャパン、資生堂ジャパン株式会社チームになって、2017年にスタートした。「すべてのがんサバイバーに笑顔を」を目指し、世の中の「がんに対する偏見」を変えていく活動は、全国に広がり、これまでに297組が参加した。ポスター展や書籍など、活動の場を広げている「ラベンダーリング」の軌跡を、御園生さんの奥様、梓さんも交えて語っていただいた。



御園生 泰明

ラベンダーリング 発起人

株式会社電通 第21ビジネスプロデュース部
アカウントリード2部 シニア・アカウントリード

2015年38歳の時に肺腺がんの告知を受ける。化学療法や放射線などによる治療のため通院しながら、周囲の支えと働きかたの改善により変わらず仕事を継続。本業の傍ら、「がんになってもいきいきと暮らせる社会を作る」ことを目的にした有志による社会活動「LAVENDER RING」を立ち上げる。2021年4月逝去

古賀 ラベンダーリングの活動は、電通にお勤めだった御園生泰明さんが、がんに罹患されたことから始まりまし

月村 2015年の秋、部下の御園生くん(38歳)から、肺腺がんの報告を受けました。そこで彼が治療をしながら仕事を続けていくために、がんをオープンにし、「FIGHT TOGETHER」というステッカーを作り、チームでサポートをすることを始めました。

1年半がたち、「がん患者を応援するこの活動を、社会に広げていきたい」と社内では志を募り始めた同じころ、彼の主治医の後藤悌先生経由で、キャンサーネットジャパン(以下CNJ)を知ったんです。

御園生 梓(以下梓) 夫の診察に付き添っていたのでよく覚えてます。主治医の後藤先生から、「じつはCNJという団体に関わっているんだけど、がん患者さんを応援するために、何かいいアイデアはないですか。御園生さんはプロでしょ」と相談があったんです。

私は夫の後ろで「え、今そんな話をするの? 治療や体調の話はしないの?」と思うのですが、夫も、がん患者さんのためにできることを模索していて、「僕が絶対に何か考えます!」と即答。二人で盛り上がり、それからは診察室

で毎回その話ばかり(笑)。

月村 このご縁で、僕らとCNJがつながりました。

がんになると30%近くの人が仕事を辞めている調査結果があって、よく見ると、がんへの偏見は社会の中にも、当事者に対してもある。偏見をなくし、がんになった人の背中を押すにはどうしたらいいか。

御園生くんは、がん治療を続けながらプロ選手として走り続けている、フットサルの久光重貴さんの写真にとっても勇気づけられていたので、がんでも元気に頑張っている人たちの笑顔の写真を撮って、展示しようと、方向は固まっていきました。

「がんの偏見を変える」

写真にプロフェッショナルは

不可欠だった

月村 そこで撮影とヘアメイクの協力を得るために、資生堂さんへお願いに行きました。

僕らの活動は最初から、プロフェッショナルな質にこだわっていたんです。資生堂さんはビューティの力はも

ちろん、古くからクリエイティブ力が圧倒的に強い企業ですし、金澤正人さんという写真家がいる。

担当の方から役員へ話をあげていただいたころ、快諾のお返事をいただくことができました。

古賀 金澤さんは、有名な女優さんやモデルさんの撮影をされていますが、一般のがん患者さんの撮影をするという話を聞いたとき、どう思われましたか。

金澤 まずこれは一回限りのイベントか、継続していく活動なのかを確認し

ました。イベントなら僕でなくてもよかったかもしれない。

写真を介して「がんに対する偏見」をみんなが考える活動にしていきたいと聞き、ならば撮られた人が満足して終わってはだめだ。周りに勇気や喜びのエネルギーが派生し、「つぎは私も撮られたい、みんなに見て欲しい」と思ってもらえる「写真の力」が必要です。



月村 寛之

株式会社電通 BX クリエイティブセンター 部長

2017年、肺腺がん罹患した会社の同僚の御園生泰明(2021年死去)と有志、資生堂、CNJと共にLAVENDER RINGを立ち上げた。慶応大学経済学部卒、仲畑貴志とのクレーティブブティック「ナカハタ」社長などを経て1990年より現職。

「ましてや継続していくには、ある程度、力のあるフォトグラファーでないといけない。ただ、そういう人は忙しいので、僕が撮ろうと決めました。」

手探りで始動した

第二回目はあつという間に予約で埋まった

月村 チームができ、早速2017年8月にCNJが主催する、日本最大級のがんのフォーラム「ジャパンキャンサーフォーラム」で「メイクアップ＆フォトズ」というプログラムとして実施を決めました。

さすがにいきなり本番は不安なので、急遽7月にテスト撮影を行い、久光重貴選手をはじめ、9名の方の写真を撮りました。

今の、ポスターに「○○with cancer」と、○○に直筆で書いてもらう仕組みは、このときからあって、ラベンダーリングの原型が出来上がったかんじです。

古賀 資生堂さんは以前からアピアランス（外見）ケアの取り組みをされて

いますが、横山さんはこの話を聞き、どう思われましたか。

横山 正直に言いますと、最初、私のなかで「がん」と「写真」が結びつかなかったんです。私たちは半世紀以上、やけど跡や傷跡などでお悩みの方に化粧によるアドバイスを行ってきました。2008年からは、医療機関や患者会を中心にがん患者さんに向けた活動を行っていましたので、写真を撮ることをご本人はどう思われるのかが、とても不安でした。

しかもお話を聞いたのがテスト撮影の1か月前（笑）。経験豊富で何事も動じない技術者を2名連れていくことにしました。

古賀 不安は的中しましたか？

横山 外れました。最初にいらした島ナオさんという女性の、ご自身の想いを一生懸命伝えながら、撮影を楽しみどんどん輝いていく姿を見て、あ、そういうことなのか。私たちは化粧を担当するけれど、化粧をして撮影をしてポスターになる。「場」の中で、一つのパートとして資生堂も寄り添い、お役に立てるのかもしれないと実感しました。



御園生 梓

間取りアドバイザー

間取りと収納のセカンドオピニオンサービスを提供する「ABIYO」代表
オーダーメイド型収納設計を中心に、自邸建築経験も踏まえて、二級建築士、
住空間収納プランナー、主婦の視点から、後悔のない間取りを提案。

2008年に御園生泰明氏と結婚。中2息子と小5娘の母。

CNJ がんナビゲーター



古賀 真美

NPO 法人がんネットジャパン（CNJ）常務理事

2002年、急性リンパ性白血病を発症した弟へ末梢血幹細胞提供を機
に、白血病患者や家族・骨髄ドナーの相談支援をライフワークとしている。
2023年3月に乳がん診断、現在治療を受けながら活動を継続している。

「つなぐ」「約束」

さまざまな想いを込めて

「ラベンダーリング」と

命名

月村 8月本番の朝は、本当に皆さんが参加してくれるのかびくびくしていました。予約の方ももちろん、出来上がったポスターを見た方で当日受け付けはいっぱいに。2日目は、開始前に予約で埋まりました。

たくさんの方から、「つぎはいつやるんですか？」と声がかかり、このプロジェクトは継続ができると、御園生くんはじめ、スタッフ全員が確信したと思います。

古賀 ラベンダーリングというプロジェクトの名前はその後についていたでしたね。

月村 続けることを前提にみんなで考えました。がんと書かずにがんを感じる言葉はなんだろう。乳がんはピンクリボン、小児がんはゴールドリボン。すべてのがんを象徴する色がラベンダー。リングは「繋がる」以外にも、指輪だから「約束」。色々な想いを込め、「ラベンダーリング」になりました。

一生懸命生きています。

そのことを伝えたい

人間の「瞬間」を撮る

古賀 がんサバイバーさんのなかには、緊張している方もいらっしゃると思います。金澤さんはどう撮影に向き合ってこられましたか。

金澤 僕は目の前の人を、がん患者さんと意識してなくて。「今、一生懸命生きていることを、周りの人たちに伝えたい人間が、僕の目の前に立っている」と思っています。

その人の笑顔や覚悟、優しさが見えれば、そこをしっかりと写真におさめる。家族なら、家族が集団になった時にビシッと形になる瞬間を逃さないようにします。

この写真は、ご本人が喜ぶこと以上に、見た人がどう感じてくれているかが重要で、じつは、そのことを分かって撮られている方がとても多いんです。

メッセージを感じる写真を撮るには、本物のモデルのような体験をしていただく「場」が重要で、広告と同じレベルの機材や声掛けをします。



横山 加津子

資生堂ジャパン株式会社 美容戦略部
ライフクオリティー ビューティーセンター
マネージャー

肌の深い悩み（病気や治療による外見変化、あざや傷跡など）を持つ方が本来の自分らしさを取り戻すさまざまな社会活動を企画・実施。

金澤 正人

フォトグラファー
1988年株式会社資生堂入社
数多くの資生堂の広告写真を撮影
現在は資生堂クリエイティブ株式会社に所属
公益社団法人日本広告写真家協会会員

月村 化粧をして写真を撮ることなら、誰にでもできます。ラベンダーリングは、プロフェッショナルと、思っているの衣装やポーズ、輝く笑顔で自分を演出する参加者として、場を作っていく。それが特徴的ですね。

生きた「記録」が

写真に残り、後々も

人を勇気づける

古賀 これまでたくさん写真を撮ってきましたが、なかには御園生さんをはじめ、先に旅立たれた方々もいらっしやいます。

月村 活動を始めて年月がたつと、学びがたくさんあって。そのひとつは、「亡くなっても、その人の写真は「残っている」」ことです。

撮影のあとに亡くなられた女性の娘さんが、「ポスターに、母はこんなことを書いたんだって、記録になる」と言ってくれました。

御園生くんのポスターも笑顔と、彼の字で「プロデュース」と書いてある。みんなの生きてきた瞬間がメッセージとともに、記録としてきちんと残っている。それが後々もずっと、自分たちを勇気づける存在になるんですね。

古賀 御園生さんにとって、ラベンダーリングはどんな存在だったのでしょうか。

梓 撮影当日に、夫は体調が良くないことが多かったのですが、毎回「みんな

喜んでくれて、本当に嬉しかった」と朝より元気に戻ってきました。皆さんからいただいたエネルギーが、自分の治療のエネルギーになっていました。夫は亡くなる前日まで、ラベンダーリングのことを考えていたんです。それだけ大切な存在があって、夫は幸せでした。

医師がこの書籍を

診察室でポンと

手渡してくれたら

古賀 嬉しいことに、撮りためた写真のポスター展をやりたいと病院からご要望をいただくことが増えました。2021年に完成した書籍も多くの病院に置いてくださっています。

横山 がんになった時に医師がこの書籍を手渡してくれたら、患者さんやご家族もがんのイメージが大きく変わるのではないのでしょうか。気持ちや考え方が少しでも切り替わるきっかけとして、ラベンダーリングを多くの方に知っていただきたいです。

梓 久光さんの一枚の写真から夫は勇気をもらいました。そこから始まり、



たくさん写真が生まれて、さらに元気のパワーが広がる。その連鎖が世の中の意識を変え、がんと共生することが当たり前の世界になると思うんです。夫は「それをするだけで、世の中はどう変わるのか」といつも言っていました。ラベンダーリングを無理なく続けてほしいと願っています。

月村 この活動が世の中を1ミリでも変えられるのなら、いつか他の病気や差別なども変えられるかもしれない。そのためにも、みんなが走り続ける力と勇気はずっと持っていたいと思っています。

Report

LAVENDER RING
2023 開催報告

LAVENDER RING MAKEUP & PHOTOS WITH SMILESはこれまで主に東京での開催でしたが、2023年はさらに愛知、大阪、愛媛、福岡の全国5箇所で開催し57組が参加しました。

開催場所となった施設の医療者からは、「普段、病院では見られない患者さんの本来の姿や笑顔を見ることができて、こちらが元気をもらった」「ポスターという形になり、それが明日への力になり、そしてそれを見た人が、自分ひとりじゃないと感じられる。患者さんの喜ぶ顔はあまり見ることができないから喜びになる。医療者も明日からがんばろう、と思える。」などの感想が寄せられました。参加者からも「スタッフの皆様から応援をいただき本当に素晴らしい写真が出来上がりました。はじめての貴重な体験でした。写真と笑顔を大切にいたします。」とのメッセージをいただきました。

MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES 開催場所一覧	
6月24日	愛知県がんセンター
6月29日	大阪国際がんセンター
8月5日	資生堂 汐留オフィス
9月2日	九州がんセンター
9月23日	四国がんセンター

また MAKEUP & PHOTOS WITH SMILESのポスター展は上記の施設に加え、下記のイベントでも開催しました。

文/藤原



詳細はこちら



<https://lavender-ring.com/>

MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES ポスター展開催場所一覧	
2月	S/PARK (資生堂グローバルイノベーションセンター) ソーシャルクリエイティブ展
4月	第31回日本医学会総会
6月	四国がんセンター
7月-8月	大阪国際がんセンター地下通路、1階、2階
9月	イオンモールナゴヤドーム前、中日健康フェア 2023、練馬区役所
10月	九州がんセンター市民公開講座 福岡エルガーラホール
11月	九州がんセンター



7月15日(土) アストラゼネカ株式会社主催の肝臓がんの市民公開講座「Liver Together ～みんなで考える肝臓がん、自分らしく生きるコツとは?～」がステーションコンファレンス東京とオンラインでのハイブリッドで開催され、C.N.Jも運営に協力しました。

最初に国立がん研究センター中央病院肝臓内科長の奥坂拓志先生が「治療を受ける上での医師とのコミュニケーションのコツ」について話され、「コミュニケーションをとるうえで、時間、患者、医療者の3つのハードルの攻略が鍵であり、メモの活用や、家族や信頼できる友人などの同席、主治医以外の医療スタッフや相談支援センターの活用などを紹介しました。続いて聖路加国際病院相談支援センターの橋本久美子さんは、短い診察時間を有効に使うために、伝え方のコツについての具体的なアドバイスや、主治医に生活の様子を伝えること、また必要なサポートを受けられるように情報を得ることが大切、と話しました。

次に20年以上肝臓がん治療と向き合われている患者の川井章さんと、C型肝

Report

Liver Together ～みんなで考える肝臓がん、
「自分らしく」生きる「コツ」は?～開催報告



炎治療49年、肝臓がん治療を11年続けられてきた吉澤克芳さんが自身の経験を語りました。

参加者からは「自分らしい生活や治療を進めていくうえで、医療関係者のみならず家族や周辺とのコミュニケーションが大切であることをあらためて教えていただきました」とか、「肝がん経験者の方から、がんであってもそれぞれの人生があり、がんと共に人生を謳歌することの大切さや美しさを感じました」などの感想が寄せられました。

文/藤原

第9回OCT (Over Cancer Together) がんサバイバースピーキングセミナー開催報告

がんサバイバーやがん患者が自らの体験をプレゼンテーションする際に必要な伝え方やマインドを学ぶ「第9回がんサバイバー・スピーキング・セミナー」が6月10日(土)、東京都渋谷区の東京ウイメンズプラザで開催されました。このセミナーは、CNJのプロジェクト「Over Cancer Together」がんを共にのりこえようあなたの声が社会を動かすの事業として2012年にスタートしたもので、これまでに約240人が修了。その多くが、がん患者支援やがん情報の発信、がん政策の分野などで活躍しています。

今回のセミナーには、全国の応募者から選ばれた26人が参加。事前にごん治療に取り組む医療者や患者団体の代表、プレゼンテーションスキルコーチなどのレクチャーをオンライン視聴したうえで、セミナーに臨みました。当日は、各自が準備してきたスピーチ原稿についてグループ内でお互いに意見交換したり、OCT卒業生であるファシリテーターに

アドバイスを受けたりして、ブラッシュアップ。セミナーの終盤では、参加者全員が、練りに練った原稿を手にその思いや提言をスピーチしました。全員の発表後には、会場の参加者やスタッフ、オプザーバーによる投票が行われ、「一番心を動かされた発表」として、長野県から参加した柿本聡さんのスピーチが選ばれました。柿本さんは、がん治療の後遺症として20代で性機能障害を抱えることになった体験を踏まえ、医療者間の連携や患者相談体制の必要性を訴えました。柿本さんは「まさか選ばれるとは思いませんでした。ありがとうございます。これからも活動はしてきましたが、きょうここで、自分自身がスキルアップできましたし、これだけの新たな仲間を得られることができました。この経験を武器に、またいろいろなることを伝えていきたいと思っています。そしてみなさんの素晴らしいスピーチを聞いたことも糧にして頑張っていきたいと思っています。」と話されました。

アドバイスを受けたらして、ブラッシュアップ。セミナーの終盤では、参加者全員が、練りに練った原稿を手にその思いや提言をスピーチしました。全員の発表後には、会場の参加者やスタッフ、オプザーバーによる投票が行われ、「一番心を動かされた発表」として、長野県から参加した柿本聡さんのスピーチが選ばれました。柿本さんは、がん治療の後遺症として20代で性機能障害を抱えることになった体験を踏まえ、医療者間の連携や患者相談体制の必要性を訴えました。柿本さんは「まさか選ばれるとは思いませんでした。ありがとうございます。これからも活動はしてきましたが、きょうここで、自分自身がスキルアップできましたし、これだけの新たな仲間を得られることができました。この経験を武器に、またいろいろなることを伝えていきたいと思っています。そしてみなさんの素晴らしいスピーチを聞いたことも糧にして頑張っていきたいと思っています。」と話されました。



上：ワークショップの様子



上：投票で1位に選ばれた柿本さん



上：完成した原稿を一人ずつ発表

セミナーを通して感じたのは、みなさんの「伝えたい」という熱意とやさしさでした。講師やファシリテーターからのアドバイスや参加者同士のディスカッションを活かして少しでも「伝わる」原稿にしようと真摯に取り組む様子があり、その熱意は他の参加者にも向けられていました。原稿をどう直したらいいか悩む仲間を助け、その「伝えたい」を後押しする。相手の言葉に熱心に耳を傾け、共に笑う。そして、涙を流す仲間に寄り添う姿も。今、OCT卒業生がさまざまな場所でごん患者を取り巻く環境を変えようと活動しています。そして、そこに26人の強力な仲間が増えました。みなさんの熱意とやさしさが社会を変えていくのを楽しみにしていますし、私もその活動を積極的に伝えていきたいと思っています。

寄稿／金子恵紗



2023年度 CNJがんナビゲーター (CCN) 認定試験の実施報告

2023年度CNJがんナビゲーター認定試験を11月10日(金)〜12日(日)にオンラインにて実施いたしました。本試験は、がんに関する信頼性の高い情報にアクセスし、正しく理解できるかどうかを評価することを目的とし、試験時間内に「科学的根拠に基づく医療情報」、「信頼性の高い医療情報」にアクセスし解答を探すスキルを試す試験です。今年度の受験者は58名、合格者は46名となりました。

今回の受験者は、がん体験者の割合が一番多く、次いで、がん患者家族でした。医療従事者や、製薬企業にお勤めの方も多く、より医療に貢献できるようにとの思いから受験されています。また、初めて試験に挑戦される方も目立ちました。たくさんの方が、がん医療情報を正しく理解することが重要であると実感していることがうかがえます。

次回以降の試験についてはホームページ上でお知らせいたします。

文／濱中



試験概要はこちら



<https://www.cancernet.jp/training/ccn>



上：BEC・CCN・CINのCのポーズをとる講師と現地参加者

下：講習会、現地の様子



BEC 養成講座の詳細はこちら
(現在 19 期の申込は終了しています)



<https://www.cancernet.jp/training/bec>

文 / 浅葉

「今回はオンラインだったが今度はぜひ現地で参加したい」など多くの感想をいただきました。

開催後のアンケートでは、「和やかな雰囲気の中で大変有意義な講習を受けることができた」「登壇者の皆さんのお話はとても熱量を感じ、それぞれのお立場からの想いが伝わってきました。」「自分の活動のチアーになりました。」「今回はオンラインだったが今度はぜひ現地で参加したい」など多くの感想をいただきました。

できる場となりました。

また NPO 法人くまがやピンクリボンの会代表理事で BEC 8 期の栗原和江さんには、実際のがん教育の現場のことを共有いただきました。そして最後に JCP 認定もしバナマイスター中村恵さんのもと、グループに分かれもしバナゲームを実施しました。各セッションとも参加者からの質問や感想があり、関心の深さがうかがえました。また、現地での昼休みの自己紹介タイムやオンラインでの交流会などもあり、認定者同士の交流や情報交換もできる場となりました。

9 月 17 日(日) に BEC・CIN・CCN アドバンス講習会を開催しました。アドバンス講習会とは CNJ が認定した乳がん体験者コーディネーター (BEC)、がん情報ナビゲーター (CIN)、CNJ がナビゲーター (CCN) のみが参加できるフォローアップを目的とした講習会。第 6 回となる今年は今約 4 年ぶりの対面開催。さらに現地である東京ウイメンズプラザとオンラインでつなぎ、全国各地の認定者も参加できるようにハイブリットで行いました。午前 10 時半～午後 4 時半までと一日がかりにも関わらず多くの方に参加いただき、認定者の方々のパワーを感じる講習会でした。

Report

BEC・CIN・CCN 認定者対象
アドバンス講習会開催報告

Report

がん患者さんの支援のために
2023 年もチャリティバイク・ライドイベント
「Continent 2 Continent 4 Cancer (C2C4C)」を開催!



①



②



③

① イベントを通してチームの結束力も高まります
(左から 2 番目は弊社社長のスティーブ・スギノ)

② 山道走る当社社員ライダーたち

③ 「誰のために走るのか?」
— 患者さんへの想いをフラッグにメンバーが書き込みます

プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社は、9 月 21 日から 21 日間、がん患者さん支援に向けたチャリティバイク・ライドイベント「Continent 2 Continent 4 Cancer (C2C4C)」を開催しました。C2C4C は、2014 年に当社米国内本社の有志社員が始めた自転車長距離走行するチャリティ活動です。3 回目の開催となった日本では、7 チーム・約 70 名の社員が、がん患者さんが経験される治療の苦しみを想像しながら、栃木県や群馬県など 2100 km の厳しい道のりをリレー形式で走破しました。また 6 月から行った募金活動では、社員が社内外に支援を呼びかけ多くの寄付を集めることができました。

イベント後社員からは「走行中、がんと闘うご家族をお持ちの男性と会話する機会があり、寄付活動ががん患者さんとご家族の大きな励みになった」との声も聞かれています。

詳細はこちら



<https://www.bms.com/jp/csr/activities-in-japan/c2c4c.html>

12 月、集まった寄付金と当社からの寄付金を合わせた総額約 2300 万円をキャンサーネットジャパンに寄付しました。がん患者さんとそのご家族への支援としてお役に立てれば幸いです。

寄稿 / プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社

ジャパンキヤンサーフォーラム2023

オンライン開催報告

がん患者さんやご家族、一般市民のための日本最大級のがんフォーラムであるJapan Cancer Forum 2023を8月5日（土）～6日（日）にオンラインで開催しました。

10回目の開催となる今回は「多様な時代を生きるあなたへの選択、私の選択」をキャッチコピーとし、各疾患の治療のアップデートのほか、がん治療のいろは、口腔ケア、これからのがん対策、など44の多彩なプログラムを配信しました。事前の参加申込は2450名、多くが初めての参加者で、医療従事者の参加も目立ちました。アーカイブ動画として現在もほとんどのプログラムを無料で公開中です。

視聴サイトを公開した期間（8月1日～6日）にいつでも視聴可能なオンデマンド配信のプログラムは、当日の視聴したいセッションが重複することへの解消につながり、好評でした。

さまざまなトークテーマとゲストを迎え

ての交流会は、初めての試みで開催、カメラオフで聞いているだけの参加も可能にしたことで参加へのハードルが下がり、各回盛況でした。オンラインブースは、過去最多となる65団体が参加し、患者支援や情報提供をしている団体を紹介する情報源としての活用にもつながりました。ブース出展団体は、特設サイトで現在も公開しています。

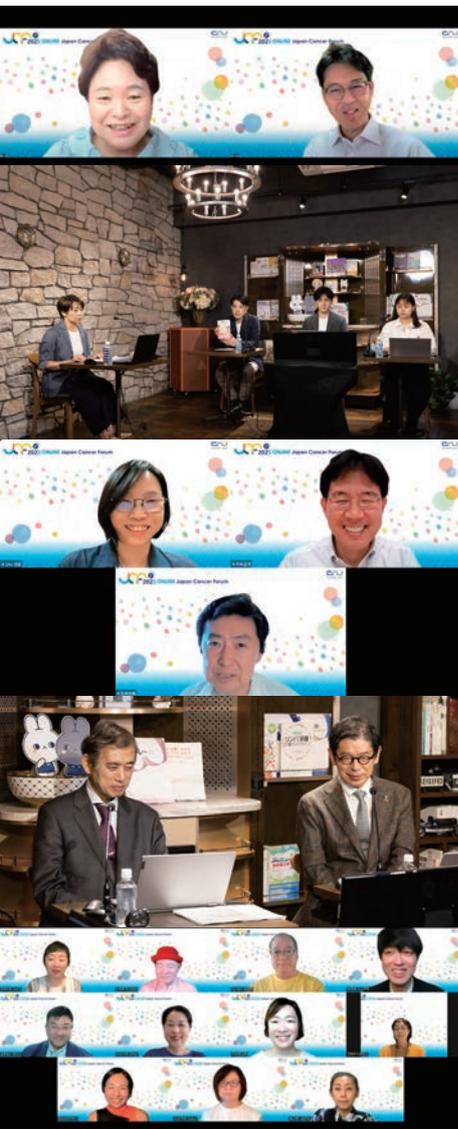
登壇者をはじめ無償でご協力くださった皆さまのおかげで、今回も盛会のうちに終わることができましたことを改めてお礼申し上げます。今後も継続して開催できるように、皆さま方からの寄付などによるご支援を賜りたく、引き続きよろしくお願いたします。

第11回となるJapan Cancer Forum 2024は2024年8月24日（土）～25日（日）の日程で現地開催の予定です。コロナ禍以降オンライン配信をしていましたが、徐々



に現地開催でのイベントも増え、そこでも感じられないものを再認識することもあります。オンライン開催継続へのご要望もたくさん届きますが、プログラムのほとんどをアーカイブ動画として公開します。皆さまのご理解を頂き、今年も直接お目にかかれることを楽しみにしております。

文/池田



上：登壇の様子

アーカイブ動画 一覧



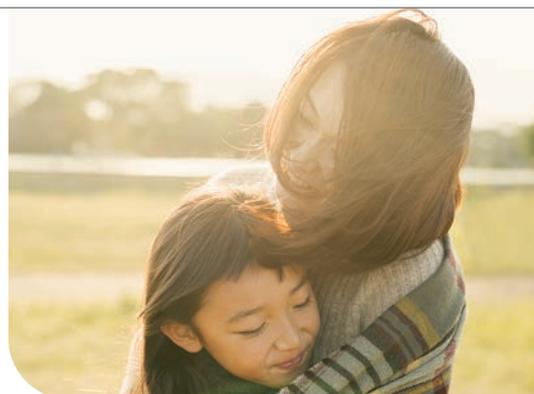
<https://www.japancancerforum.jp/programs>

Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



Report

笑顔輝く

ゴールドリボンナイター2023 開催報告

世界小児がん啓発月間である9月のイベントとして、前年に引き続き2回目となる「キャンサーネットジャパン presents ゴールドリボンナイター」を、神宮球場にて9月2日(土)に実施いたしました。試合は東京ヤクルトスワローズ対阪神タイガース。当日、球場は大盛り上がりでした。観客席には小児がんサバイバーとご家族58名を招待し、試合前の練習風景の見学や、小児がん支援冠試合のセレモニーとして始球式や花束贈呈、各ポジションでのエスコートキッズに、多くのサバイバー&きょうだい児が参加して、マウンドも観戦席も笑顔輝くひとときとなりました。今回は初めて球場入口にCNJのブースを設置していただき、小児がん啓発活動レモネードスタンドのアンバサダーであるレモン&シユガーの可愛いグッズの販売と募金活動を行いました。ブースでは、早稲田大学ビジネススクール企業経営と社会変革ゼミのメンバーに協力



①



②

してもらいました。来場者にはオリジナルのうちわを1万枚、そして昨年に続きヤクルト球団が作成くださったゴールドのリストバンド3000個を配布し、大好評でした。

神宮球場入口には、大きな横断幕、左右にはスワローズのキャラクター「つば九郎」と「つばみちゃん」、その前で多くの方々が記念写真を撮っている様子が印象的でした。また、サプライズで古田敦也さんが応援に来てくださり、招待席と一緒に観戦するひとときもありました。

当日の試合はフジテレビONEで生中継され、理事の中井美穂が小児がんについて支援を呼びかけるメッセージが放映されました。翌日には、複数の新聞はじめ、テレビでは民放2社の情報番組でセレモニーの様子などが紹介されました。

参加者からは「始球式やセレモニーの中で観客の皆さんからの温かい拍手をいただいた感謝です。」「古田選手のサプライズはめちゃくちゃ



⑤



③



④

- ① エスコートキッズのみなさん
- ② 小谷侑生さんによる始球式
- ③ 配布したオリジナルのうちわ
- ④ ヤクルト選手と握手をするエスコートキッズ
- ⑤ 中井美穂さんとCNJブースでの募金活動

嬉しかったです。」「病院の先生と一緒に試合を観戦できたことがとても嬉しかったです。この先も1つ1つ乗り越えていこうという力になりました。」など多くの感想が届きました。

今回のゴールドリボンナイターの実施にあたりましては、大変多くの皆様よりご支援をいただきました。協賛寄付を頂いた企業と個人の皆様、当日ボランティアスタッフとしてお手伝いいただいた皆様、ヤクルト球団、神宮球場の皆様、そして、日本小児がん研究グループ広報委員会の諸先生方へ心より感謝申し上げます。キャッチフレーズの「小児がんをかつ飛ばせ!」が日本中に広まることを一緒に願っていただけなら幸いです。

文/古賀

詳細はこちら



<https://www.cancernet.jp/230902>

News

大腸がんセミナー
「どう伝える?わたしの悩み」
3月開催決定

大腸がん啓発月間である3月。CNJは3日(日)に、大腸がん患者さんご家族のためのオンラインセミナー「どう伝える?わたしの悩み」を武田薬品工業株式会社と共催で開催します。

大腸がん患者さんは治療中、治療後に多くの悩みを抱えています。ただ、それを医療者に伝えるに、誰に伝えればいいのか分からないと感じている方も多くいます。医療者よりよいコミュニケーションを図るには?本セミナーを通じて、一緒に考えてみませんか。

プログラムはまず初めに愛知県がんセンター薬物療法部の谷口浩也先生より大腸がんのお話をしていただきます。パネルディスカッションでは、認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長の山口育子さんも迎え、事前に寄せられた質問や悩みをもとに、ディスカッションを行います。司会はCNJの理事である中井美穂が務め、当日視聴者からも質問を受け付ける予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

文/淺葉

日時/ 2024年3月3日(日)
時間/ 11:00 ~ 12:00
オンライン Zoom 配信



お申込、事前質問はこちら



<https://www.cancernet.jp/online240303>

ちややまちキャンサーフォーラム2023

開催報告

第9回となる「ちややまちキャンサーフォーラム2023」。11月11日（土）にMBS毎日放送との共催で4年ぶりに対面での開催となりました。会場のちやぶらステージでは、「乳がん」と「緩和ケア」の2つのテーマを取り上げました。

「もっと知りたい乳がん治療」では、最初にタレント・ラジオパーソナリティーの小川恵理子さんが、乳がんが見つかるきっかけや、自身の治療について話しました。そして「ネガティブな情報を得ないため乳がんに関する情報は見ないようにした」と当時の様子を語りました。

次に市立貝塚病院の大城智弥先生が、「乳がん治療で気になるポイント徹底解説」と題し講演しました。自分の乳がんのステージ・

サブタイプ分類を知り、それに合った治療法を検討することが最も大切なポイントであることや、センチネルリンパ節生検では、幾つかの条件はあるが、転移が2個までなら腋窩リンパ節郭清を省略しても問題ないことなどについて話し、最後に「患者さんも正しい知識を身につけることが大事」と話されました。

次に「薬物療法の最新トピックス」について市立伊丹病院の千原陽子先生が講演しました。薬物療法の周術期においては、再発リスクに応じた更なる個別化治療の一例として、サブタイプが「ホルモン陽性/ER陽陰性」では、以前は再発乳がんに対してのみの適応だった分子標的薬や、経口抗がん剤が再発高リスク乳がんの術後薬物療法へ適応拡大となったこと。また転移再発乳がんの薬物治療で「ER陽低

発見」のカテゴリーが生まれ、治療の選択肢が増える可能性があることなど、とても有益な情報をいただきました。最後に千原先生は「患者らしくではなく、自分らしく人生を送られれますように」と締めくくりました。

「我が子を看取った緩和ケア医」では、かえでホームケアクリニック理事長 関本雅子先生が、在宅緩和ケアの現状から、長男で同じく緩和ケア医の関本剛氏を2022年に肺がんで看取った経験を交えて話されました。関本先生は、近代ホスピスの母と呼ばれているシリソンダース先生の言葉「私たちはあなたが平安のうちに死ぬことができるだけでなく、最後まで生きられるようにできるだけのことをさせていただきます」を紹介し、「最後まで生きられることが緩和ケアの真髄ではないか」と話されました。また、剛氏とのエピソードのなかで、「人生の最終段階におけるケアのモットーは『最善の状況を期待しつつ、最悪に備える』と私も息子も学んできたが、彼から『自分が患者になってみて、最悪の話など聞きたくない。やっぱり日々希望をもって楽しいことを考えていないとやっていられない』と教えられた」と話しました。最後に剛氏が生き方の参考にしたという言葉をいくつか紹介し、講演を終えました。会場では涙ぐむ参加者も見られました。後半のQ&Aでは、かえでホームケアクリニックの看護師、河淵裕美恵さんも加わり、参加者からの多くの質問に回答いただきました。



MBSのロビーでは、患者さん同士がくつろいで語り合う場として患者会カフェがオープンし17団体が参加しました。また小児がん支援のレモネードスタンドも開催され、20周年を迎えたMBSのキャラクターらいよんちゃんも登場し会場は大いに賑わいました。

またMBS本社ビル前には今回も献血車が来車し、献血と骨髄バンクドナー登録の協力を呼びかけ、36名が献血し、9名がドナー登録しました。最後になりましたが、ご支援、ご協力いただいたみなさまに心より御礼申し上げます。

文／橋本・藤原

もっと知りたい乳がん治療
Q & A セッション

詳細は
こちら



<https://www.cancernet.jp/mbscnj/program.html>

患者さんと家族のための
肺がんガイドブック
悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む

2023年版 日本肺癌学会 編

患者さんご家族のさまざまな疑問に対して専門家が丁寧に解説。治療の正しい知識と最新情報に加え、生活や仕事に関する不安を解消するためのQ&Aをさらに充実させました。適切な治療を受けるため、そして肺がん治療と上手に付き合うためにぜひご活用ください。

B5判 220頁 定価2,530円(本体2,300円+税10%)
ISBN978-4-307-20478-1

金原出版 この書籍の詳細はこちらから→





Report

第14回男性乳がんの会
開催報告

9月9日(土) 第14回男性乳がんの交流会「メンズBC」を東京都港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」にてハイブリッドで開催しました。ご家族も含め、会場には7名、オンラインでは4名の方が参加しました。今回もゲストに沢田晃暢先生(NTT東日本関東病院 乳腺外科)とオンラインで下村昭彦先生(国立国際医療研究センター 乳腺・腫瘍内科/臨床ゲノム科)が参加され、参加者からの多くの質問に回答いただきました。現在の状況の報告や、治療への向き合い方など共有しながら、和やかなムードで会が進みました。

ブラザーコーンさんが男性乳がんを公表されたことで、メディアにも取り上げられ、男性乳がんに対する認知度も少しずつ高まってきましたが、患者さんが集まる機会はまだまだありません。CNJでは今後も年に2〜3回、男性乳がんの交流会を続けてまいりますので、一人で治療と向き合っている患者さん、ご家族の方、是非ご参加ください。今後の予定はCNJメールマガジンで。 文/藤原

メルマガ登録はこちら



<https://www.cancernet.jp/cnjmail>

News

レモネードスタンド開催支援として
マヌカハニーの提供を開始

レモネードスタンドジャパンでは、レモネードスタンドを開催される方へレモン原液の提供などのサポートを行っています。この度、コンビニジャパン株式会社からのご協力により、開催申込者限定でマヌカハニーの提供も開始しました。学校の文化祭や夏祭り、地域のコミュニティやイベントで小児がん支援のレモネードスタンドを開催する場合、配布予定数に応じてマヌカハニーを提供いたします。マヌカハニーは、ニュージーランド原産のフトモモ科の低木で、その花蜜からミツバチによって採取されるのがマヌカハニーです。マヌカハニーを使ったレシビはレモネードスタンドジャパンのホームページで紹介しています。マヌカハニーは貴重なため、数量限定での提供となります。

また、印刷して使用可能なレモネードスタンドジャパン応援アンバサダーレモン&シュガーの可愛いPOPも申込者限定で配布中です。

寒い季節でも、温かいレモネードで体も心も温まりませんか。皆様からのお申込みをお待ちしております。

文/濱中



お申込みは
ホームページから



<https://www.lemonadestand.jp/>



第14回
リリー・オンコロジー・オン・キャンパス

がんと生きる、わたしの物語。

絵画 × 写真 × 絵手紙 コンテスト

コンテスト作品募集

あなたの物語を表現してみませんか

コンテストは、技法や手法にとらわれることなく、
がんとともに生きる「想いを伝える」ことを重要にしています。

応募登録期間(当日消印有効)
2023年8月22日(火)~2024年1月31日(水)



リリー・オンコロジー・オン・キャンパス事務局
〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシスビル7階(東武トップツアーズ メディカルカンファレンスセンター大阪内)

0120-78-1307 10:00~17:30 平日(土日祝日除く) info-locj@tobutoptours.co.jp www.locj.jp

主催:日本イーライリリー株式会社 後援:公益財団法人 日本対がん協会 / 厚生労働省 / 兵庫県 / 神戸市 / 大阪市

子宮頸がん予防啓発リーフレット改訂／冊子「もっと知ってほしい子宮頸がんのこと」改訂

CNJでは、宮城悦子先生（横浜市立大学大学院医学研究科産婦人科学）監修のもと、子宮頸がん予防啓発リーフレットを一新いたしました。HPVワクチンや子宮頸がん検診について平易に説明しています。自治体、教育機関、病院に先着6万部の無償提供を行ったところ、わかりやすいと好評をいただき、73件の申込を受け、提供開始後わずか10日で6万部に達しました。

子宮頸がんは、若いうちにHPVワクチンを接種することによってHPVの感染を予防し、さらに定期的な検診により早期に発見・治療することで子宮頸がんによって亡くなることを防ぐことができる、予防しやすいがんです。それゆえに、若い世代が子宮頸がんやその予防の知識を備えておくことが大切です。現在、HPVワクチンの積極的勧奨がス



トップしていた間に接種機会を逃してしまった女性のために「無料キャッチアップ接種」が提供されています。今年1月に成人式を迎える20歳の女性もその対象で、子宮頸がんの定期検診もまた、20歳から始まります。HPVは、男女問わず、性経験がある人の80%以上が一生に一度は感染すると言われてい

ます。男性も、中咽頭がんなどのがんにかかるリスクがあるため、決して関係がないことではありません。子宮頸がんやその予防のこと、HPVのことを知っておくことは、特に、今後パートナーとの関係を築いていくことになるであろう新成人をはじめ若い世代にとって非常に重要なことです。そのため、成人式でこのリーフレットを配布いただけるよう自治体等に向け無償提供を行いました。他にも、小・中・高校・大学で配布したり、HPVワクチンや子宮頸がん検診の案内に同封したりとご利用いただいています。現在は、1枚10円十消費税、送料無料で承っています。

無償で提供ができるよう、企業等からご支援も募っています。

冊子「もっと知ってほしい子宮頸がんのこと」も1月末に改訂版を発刊する予定です。こちらでもどうぞご利用ください。

文／多田

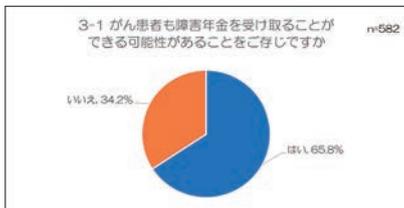
詳細はこちら



<https://www.cancernet.jp/cancer/cervical/leaflet>

障害年金に関するアンケート実施報告

障害年金は、病気などで障害を生じた人が働くことや日常生活に困難がある場合に受け取ることができるものです。CNJでは、がん患者さん、ご家族の方を対象に、障害年金に関するアンケートを2023年6月26日〜7月10日に実施し、結果を公開しました。本アンケートでは、障害年金の認知度や相談先、請求を妨げるハードルなどを調べ、582件の回答が寄せられました。その結果、要件に合えばがん患者さんが障害年金を請求できることについて、患者さんにも、医師にも、十分に知られているとは言えないことが示されました。



この結果を踏まえ、CNJでは、がん患者さん・ご家族向けに、障害年金についてわかりやすく説明するサイトと、医師向けに、非常に煩雑だと言われる障害年金請求用の診断書の作成ガイドブックを制作しています。必要とする方が障害年金を受給できるよう、まずは障害年金の認知度を高めるために、ファイザー株式会社よりハコブ型V医学教育プロジェクトの助成を受け

て、これらの活動を進めているところですが、

文／多田

アンケート結果の詳細はこちら



<https://www.cancernet.jp/investigation>

MEDICAL MARKET VISION

情報のチカラでつなぐ未来の医療。

私たちの使命は、患者さんのために、医療従事者や製薬会社の方々へ確かな情報をリサーチ・分析し、発信することです。

4つの目線（地域・患者さん・疾患・製品）で医薬品マーケットの本質を理解し、ソリューションを提供いたします。

メディカルマーケットビジョン株式会社



Report

「患者力を高めよう！ー医療者との
良好なコミュニケーションの実現ー」開催報告

11月30日（木）に、サノフィ株式会社主催、CNIJ運営協力にて「患者力を高めようー医療者との良好なコミュニケーションの実現ー」のオンラインセミナーが開催されました。宮城悦子先生（横浜市立大学大学院医学研究科産婦人科学）に、患者さんが納得して治療を受けるために、婦人科がんの患者さんに焦点を当てながら、診断直後、治療開始前、治療中のそれぞれのタイミングにおける、患者さんやご家族が医療者とコミュニケーションをはかるためのコツをお話しいただきました。

横浜市立大学附属病院では、日々病院内で患者さんの治療計画や治療経過をどのように共有しているか例をあげ、担当医だけではなく、問題解決のサポートができるスタッフが病院にいることを知ってほしい、遠慮なく相談してほしいと説明がありました。

治療中の痛みのコ

ントロールや不安の解消は、治療経過にも影響する大切なことであるため一人で抱え込まずに医療者に伝えること、聞きにくいセクシアリテイ

に関する場合は、医師に相談しにくければ、看護師に相談するようアドバイスがありました。

また、同じ病気の患者会メンバーに思い切った相談してみること、個人情報保護しながら、適切なアドバイスや有用な情報を受け取ることができ、前向きに治療を受けるきっかけとなるが多々あること、さらには、そこから他の患者さんの相談を受ける活動に進む方もいらっしゃるご紹介されました。

講演中に何度も、「遠慮なく、気になることがあれば相談してほしい」と繰り返し伝えられていたことが印象的でした。

セミナーの動画（約20分）は、2024年3月末までアーカイブ配信しています。ぜひご視聴ください。また、アンケートにてご感想をお寄せ頂いた方の中で、希望者にはもちろん「子宮頸がん患者座談会「コミュニケーションサポート冊子」」をお送りいたします。

文/多田

アーカイブ動画
はこちらから



<https://www.cancernet.jp/online231130>

アンケート
はこちらから



<https://forms.gle/DASRGVdLq25Jj8Zc6>

MAT-JP-2309171-1.0-12/2023

Report

男性がん総合フォーラム
Mo-FESTA CANCER
FORUM 2023 東京開催報告

11月23日（木・祝）NPO法人腺友倶楽部が2018年から開催しているMo-FESTA CANCER FORUMに2023年も運営協力しました。会場は100名を超える人が参加し、約4時間で6つの講演が行われました。

最初に秋田大学医学部附属病院泌尿器科の成田伸太郎先生が「これだけは知っておきたい、前立腺がんの診断と治療」と題して前立腺がんの疫学、診断、治療の基本的な部分をお話され、三重大学医学部附属病院腎泌尿器外科の井上貴博先生が「治療選択の迷いどころ、限局がんと転移がんの狭間を探る」というテーマで話されました。続いて「外照射の進歩とSBR1超寡分割照射について」というテーマで東京大学医学部附属病院放射線科の山下英臣先生が、また「小線源治療の現状と今後の展望について」を徳島市民病院泌尿器科の福森知治先生が、「進行前立腺がん治療におけるPSA検査の落とし穴と画像診断」というテーマを金沢大学附属病院泌尿器科の溝上敦先生が講演しました。最後に北里大学病院看護部がん看護専門看護師の近藤まゆみさんが「がんサバイバーシップ」というテーマでサバイバーシップの概念について話しました。2023年に前立腺癌診療ガイドラインが改訂されたこともあり、その紹介や新たな知見なども盛り込まれ、患者さんにとって学びの多い、大変充実したフォーラムとなりました。

文/藤原

We chase the *miracles*
of science to improve people's lives

私たちは人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求します。



サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー www.sanofi.co.jp

sanofi

血液がんフォーラム2023

オンライン開催報告

5回目の開催となった「血液がんフォーラム2023」は、白血病やリンパ腫、多発性骨髄腫など血液がん治療の最新情報や血液がんを取り巻く課題および問題をテーマとして取り上げ、11月18日（土）～19日（日）の2日間、オンラインで開催しました。

事前の参加申込は1341名、初めての参加者が約7割を占め、立場として4割弱と最も多くの割合を医療従事者が占めたのは、特徴的な傾向でした。また、本フォーラムを知ったきっかけは病院内に掲示されているポスターやチラシが最も多く、デジタル情報が多くなる中でも、紙の情報へのニーズが高いことや、かかりつけの病院にある情報に対する信頼度の高さを感じました。日頃よりご協力いただいております医療機関の皆様にも改めてお礼申し上げます。

血液がんを取り巻く環境として、昨年7月に造血器腫瘍診療ガイドラインの改訂がありました。各疾患解説では、最新のガイドラインの情報を盛り込むだけでなく、国内外の学会等から得られた情報も交えて分かりやすく解説いただき、患者さんやご家族のみならず、医療従事者にとっても貴重な情報源となる内容として、届けることができました。

今回初の試みとして、疾患解説はオンデマンド配信を中心に視聴サイトを公開中はいつでも視聴可能とし、ライブ配信は1会場のみで血液がんに共通するテーマを中心に配信しました。これにより、たびたび視聴者の声として上がっていた、視聴したいセッションが重複する、ということを解消しました。また、昼休憩が欲しいというリクエストにも応え、45分間の休憩も間に挟み、配信しました。

生配信をスタジオからお届けしたのも今回が初。演者の皆様と直接打合せをして届けることで、完全なリモート配信では得られない化学反応を起こすことも。コロナ禍以降、未だハードルの高い領域ではあるものの、直接届けることもある意味で恐れずに進めていきたいと感じました。

オンラインブースには28団体が出展、うち14団体が開催する独自の交流会の案内を含め、情報を集約して公開しました。また、各団体の活動については、X（旧 Twitter）のスペースで直接紹介し、掲載の内容だけでは伝わりにくい活動を具体的に伝える機会を作りました。

参加者からはとても温かいメッセージや寄付による支援を賜りました。必ず、次回以降の開催に生かしてまいります。フリーコメントでは、「コロナ禍での治療だったし、無菌室での治療が長かったので、家族とも、患者さんとも会えず、医療従事者だけからの状況しかなかったので、とても参考になりました。」「治療の励みになっています。」「新人も含め経験年数の少ない看護師の方々にも是非参加してもらえよう、声をかけていきたいと思いました。」など、沢山の声をいただきました。

開催にあたりご登壇いただいた先生方やご協力いただきました皆様、ご支援をいただきました企業等の皆様方へ、この場を借りて感謝申し上げます。

文/池田

詳細はこちら



<https://www.bloodcancerforum.jp/>

ヤンセンが目指すのは、病が過去のものになる未来を作ることです。

世界のすべてが、私たちの研究室。病と懸命に闘う患者さんのために、高い科学技術、独創的な知性、世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。複雑な課題にこそ挑んでいく。新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。革新的な薬や治療法を、届ける。世界中に、私たちを待つ人がいる限り。誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。そんな「当たり前」の願いのために、自ら変化し、努力を続けます。

ヤンセンファーマ株式会社
www.janssen.com/japan
www.facebook.com/JanssenJapan

Janssen
 PHARMACEUTICAL COMPANIES OF
 Johnson & Johnson



血液がん知っとかナイト開催中

2023年9月から毎月1回1つのテーマをじっくり学び・集う「血液がん知っとかナイト」を開催しています。9月と10月は多発性骨髄腫について、東京北医療センター／顧問／国際骨髄腫先端治療研究センター／センター長の三輪哲義先生に解説していただきました。各回の参加者は156名と180名でした。

多発性骨髄腫という病気をどのように理解するか、どのように治療していくのか2回にわたるお話はとても興味深く、骨髄腫は形質細胞の腫瘍であ



血液がん知っとかナイト
血液がんを知る 学ぶ 集う

2023年 2024年
9月~3月 (11月を除く) 1回/月
19:00~21:00

参加費 **無料** ※要申込
オンライン開催 zoom

ご参加方法の詳細はこちら <https://www.cancernet.jp/night2023>

1月25日(木)	障害年金のこと	勝俣 範之 先生 宇代 謙治 先生
2月14日(水)	SDM (医療者と考える最適な選択) のこと (1) (2)	平原 憲道 先生
3月19日(火)		

るとだけ考えていては不十分である、という導入から話に引き込まれ、各回時間を忘れてしまう内容と熱意に聞き入ってしまいました。今回は、患者さんよりも医療者の参加が多かったものの、内容が難しかった、患者さんには難しいのではないかとという医療者の反応に対し、「先生のお話は一見難しいと思いましたが、私でも大体は理解出来るものでした」「大まかな表面的な説明ではなく、詳細でじっくりと、しかも解かりやすく説明していただいた」と参加した患者さんの満足度が高い結果となったのも興味深い結果でした。年齢問わず、患者さんやご家族が病気のことを良く理解されているということが、今回の参加者の傾向として感じ取れました。

質疑応答の時間も長めに取り、深掘りしていく今回のようなセミナー形式は初めての試みでしたが、一定の評価が得られました。12月は大阪国際がんセンター血液内科／AYA世代サポートチーム診療主任の多田雄真先生に「知っておきたい造血幹細胞移植のこと」をテーマに開催しました。

今年度は3月末まで予定していますが、「血液がん知っとかナイト」をさまざまなテーマで継続開催できるように、引き続き、ご寄付やリクエストなどを募集中です。

文/池田

詳細はこちら



<https://www.cancernet.jp/night2023>

**CANCER
HAS NO BORDERS
NEITHER
DO WE**

Website: BeiGene.com
Linkedin: linkedin.com/company/beigene





詳細はこちら



<https://www.cancernet.jp/cml>

白血病には、ゆっくり進む慢性白血病と、急激に白血病細胞が増殖して病気が進行する急性白血病があります。慢性骨髄性白血病は、1990年代まで命を脅かす怖い病気でしたが、原因となる遺伝子をターゲットにした薬が2001年に登場し、状況は劇的に変わりました。今では、早期に病気を抑えられれば、薬を服用しながら通常の生活が続けられます。さらに、一定の条件を満たせば完治を目指せるようになっていきます。

本冊子は、佐賀大学医学部内科学講座血液・呼吸器・腫瘍内科教授の木村晋也先生監修のもと、慢性骨髄性白血病の検査や病期、標準的な治療法や副作用、治療薬の服用をやめられるのはどのようなときか、など、患者さんやご家族など支援される方が知っておきたいことをまとめています。本冊子制作にあたっては、ファイザー株式会社による「公募型」V医学教育プロジェクトの助成を受けました。

冊子はウェブサイトで閲覧でき、無料ダウンロードが可能です。是非、ご利用ください。

文/池田

News

冊子「もっと知ってほしい慢性骨髄性白血病のこと」
発行

News

不定期開催中
「まみとあきこの血液がん話とかナイト」

News

冊子「もっと知ってほしい高額療養費制度のこと」
改訂

Follow Me

Xアカウント名：
start2be ☆
血液がん・移植治療の啓発プロジェクト



https://twitter.com/start_to_be

文/池田

血液がんをテーマに、X (旧 Twitter) のスペースで、リラックスして参加できる「まみとあきこの血液がん話とかナイト」を昨年7月より不定期で開催しています。

自身も血縁ドナーや同種移植の経験を持つ血液がんのプロジェクトの担当者2名が、毎回さまざまなゲストを招いたり、参加者からの質問や相談、おしゃべりを、チャットや音声参加で受けたりしています。開催は月に1〜2回、時間は平日の夜20時から21時半までです。

血液がんフォーラムの時期は、ブラス出展団体に活動をご紹介いただき、好評でした。お金のプロを招いてがん治療に限らず、あれこれ相談に乗っていただくことも。音声だけの配信なので、参加のハードルも低く、自由に入出りできるのも人気のポイントです。

参加申込は不要。トークテーマやゲストの希望は随時受付中です。Xのフォローをして、「通知する」にチェックを入れておくと、ライブ配信開始時にお知らせが来ます。事前にXで開催案内もありますので、お気軽にご参加ください。



詳細はこちら



<https://www.cancernet.jp/kougaku>

文/藤原

「もっと知ってほしい高額療養費制度のこと」の冊子を5年ぶりに改訂しました。これまでのA5サイズからA4サイズに大きくし、11個のQ&Aから構成されています。

自己負担額の計算方法から、治療の途中で保険者が変わる場合の注意点や、複数の病院に通院している場合の医療費の計算方法など図表で解説しています。また、限度額適用認定証の適用区分の判定となる収入のこと、保険者により、付加給付など独自の制度があることなど、押さえておきたいポイントや患者さんの体験談も加わり、利用者にとって具体的にイメージしやすくなりました。

この冊子が、医療費の心配を少しでも減らす一助になることを願っています。

AMGEN

To serve patients

患者さんのために、今できるすべてを

アマジェン株式会社の詳細につきましてはこちらをご覧ください

アマジェンは1980年、バイオテクノロジーの黎明期に米国カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にて産声を上げました。バイオテクノロジーを患者さんのために役立てることを決意し、以来、探求を重ねてきました。40年を経た現在、アマジェンは世界最大規模の独立バイオテクノロジー企業へと成長しました。日本では、循環器疾患、がん、骨疾患、炎症・免疫性疾患、神経疾患の領域に重点を置き、アンメット・メディカルニーズに応える製品開発を進めています。

2023年3月 CA230015SH1

がん患者やサバイバーにも多い飲酒：発がんリスクを減らすには

米国の最近の研究で、長期サバイバーの男性とがん治療中の若年者において、大量または頻りに飲酒する傾向がみられました。また、がん治療中の人のうち約75%がアルコールを摂取し、その多くは大量に飲酒していました。米国では、基準飲酒量を1ドリンク＝純アルコール約14グラム（ビール約360mL相当）としており、大量飲酒とは、1週間あたり女性で8ドリンク以上、男性で15ドリンク以上飲むことを指します。

アルコールは、国際がん研究機関（IARC）によって発がん性物質グループ1（タバコ、放射線などと同様）に分類され、アメリカがん協会（ACS）は、がんと診断される原因の約6%、がんによる死亡原因の約4%がアルコール摂取であると報告しています。アルコールががんリスクを高めるメカニズムには、DNAや肝臓への損傷、遺伝的素因などがあります。

がんの治療中は、数杯のビールやカクテルの日常的な摂取が、治療効果の低下など有害な結果を招く可能性があり、また、長期サバイバーではアルコールの常用でがんの再発リスクが高まることが示されています。

2018年に始動したAll of Us研究では、がん罹患歴があった15,199人のうち、11,815人（78%）が飲酒すると回答し、うち約1,800人はがん治療中でした。大量の飲酒をする人の割合が過半数を占め、特に男性、50歳未満、喫煙者、18歳未満で診断を受けた人で、その傾向がみられました。

特に問題なのは、多くの若年層（15～39歳のAYA世代）が大量に飲酒をすると回答したことです。最大40%のAYA世代がん患者が心的外傷後ストレス障害（PTSD）を抱えており、飲酒が関与しています。

なぜ多くのがんサバイバーがアルコールを大量に摂取するのか、例えば、痛みやうつ病などが関係していないのか、どのような対処が最善なのかを考え、医療チーム全体で協力体制を強化し、危険な飲酒行動を減らす支援方法を確立する必要があります。

アルコール摂取を制限するには、習慣や思考、行動を見直すとともに、医療者に相談してストレスや不安を軽減することが大切です。

情報提供／海外がん医療情報リファレンス

遺贈寄付の お願い

あなたの遺す志を、がん患者支援へ
託していただけませんか？

あなたからの遺贈寄付でできること
専門医による講演会実施・講演動画の配信
治療情報や経験談冊子を作成し医療機関へ届ける
がんについての養成講座や認定試験
日本最大級のがんフォーラムの実施
患者さん同士のピアサポートなどの応援

～遺贈寄付に関するご相談はこちらへ～

電話番号 : 070-8519-0336 / 03-5840-6072
電話受付時間 : 平日 10:00 ~ 17:00 (年末年始を除く)
メールアドレス : info@cancernet.jp

年始の挨拶

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

1991年に活動を開始したキャンサーネットジャパンは、今年で33年目を迎えます。コロナ禍に治療を強いられた患者さんやご家族はさぞかし不安な時間を過ごされてこられたことと存じます。しかし、その間もがん医療は滞ることなく進歩し、新しい治療が次々に開発され発表がありました。

私たちはその情報を遅れることなく患者さんやご家族へ届けたいとの思いで、オンラインで活動を続けてまいりました。これはご支援をいただいた多くの皆様のおかげです。今年はジャパンキャンサーフォーラムも対面型へ戻す準備を開始しています。一人でも多くの方々と笑顔で再会できることを楽しみに、全力で取り組んでまいりますので、お力添えをいただけましたら幸甚でございます。

新年が皆さまにとって素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



キャンサーネットジャパン 常務理事
プロジェクトマネージャー 古賀 真美

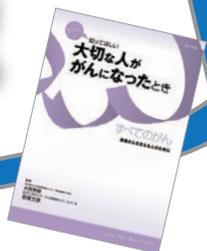
もっと

患者・ご家族用

知ってほしいシリーズ

冊子一覧

※茶文字*は、ダウンロードのみ印刷冊子はありません。



専門医が正しい情報をわかりやすく説明します。
是非、ご覧下さい。

キャンサーネットジャパンは、がんに関わる様々な冊子を発行しています。患者さんやご家族などへがん治療にまつわる情報を提供します。また、医療の現場でもお役にください。なお、これらの冊子はみなさまからのご寄付で制作しています。

疾患別



- | | | |
|-----------|----------------|--------------|
| すい臓がんのこと | 悪性脳腫瘍のこと | 小児がんのこと |
| 大腸がんのこと | 頭頸部がんのこと | 小児脳腫瘍のこと |
| 胆道がんのこと | 膀胱がんのこと | 白血病のこと |
| 肝臓がんのこと* | 前立腺がんの放射線療法のこと | 急性リンパ性白血病のこと |
| 卵巣がんのこと | 前立腺がんのこと | 急性骨髄性白血病のこと |
| 乳がんのこと | 肺がんのこと | 慢性リンパ性白血病のこと |
| 子宮頸がんのこと | 胃がんのこと | 慢性骨髄性白血病のこと |
| 子宮体がんのこと* | | 多発性骨髄腫のこと |
| | | リンパ腫のこと |

がんに関わる共通のテーマ



- | | | |
|--------------|---------------|--------------------|
| がんと栄養のこと | がん免疫療法のこと | がん悪液質の予防と改善のこと |
| 高額療養費制度のこと | がんのバイオマーカーのこと | がんの薬物療法の副作用のこと |
| 薬の開発と臨床試験のこと | がんの分子標的薬のこと | 患者さんのためのがん医療用語とお薬* |
| がんと性にまつわること | からだのこと・性のこと | |
| | 病気で治療中のあなたへ | |

患者さんを支えるかたへ



- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 大切な人ががんになったとき | 大切な人ががんになったとき | 大切な人ががんになったとき |
| | 血液がん | 女性のがん |

※「がんと性にまつわること」「からだのこと・性のこと 病気で治療中のあなたへ」はA5版
他の冊子は、A4版になります。

冊子は、全国のがん診療連携拠点病院の相談支援センターへ発送しております。
病院で見かけた方は、是非手にとってご覧下さい。

「もっと知ってほしい」シリーズ冊子は、WEBで無料でダウンロードできます。

<https://www.cancernet.jp/category/publish>

印刷した冊子をご希望の方は、左の
二次元バーコードよりお申込み下さい。

CNJ 冊子

検索

